

東京都多摩地域におけるクビアカツヤカミキリの拡散状況

田上 瑞基・岩田 隆太郎¹

1 日本大学 生物資源科学部

要旨：クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* の東京都多摩地域における拡散状況を、2020年7月～9月に宿主樹(ソメイヨシノ、モモ、ウメ)の樹幹からの幼虫フラス排出および成虫出現を視認することで調査した。その結果、あきる野市下代継・油平・牛沼・雨間・秋留4丁目・野辺・平沢・小川・小川東2丁目・小川東1丁目・二宮東1丁目・草花・二宮、八王子市高月町、福生市福生・北田園2丁目・北田園1丁目・南田園3丁目・南田園2丁目・南田園1丁目・熊川で棲息が確認された。この地域の発生の中心はあきる野市二宮近辺と考えられ、特にその南西方向への分布拡散が著しいように見受けられた。

キーワード：クビアカツヤカミキリ，分布，東京都多摩地区，2020年

Expansion of the distribution range of the red-necked longhorn beetle, *Aromia bungii*, an invasive species infesting rosaceous trees, in Tama District, Tokyo Prefecture

Mizuki TAUE¹, Ryūtarō IWATA¹

College of Bioresource Sciences, Nihon University 1

Abstract: The distribution range of the red-necked longhorn beetle, *Aromia bungii*, an invasive species infesting rosaceous trees, was investigated in Tama District, Tokyo Prefecture from July to September, 2020 by directly observing the ejection of larval frass from the host trees (*Cerasus yedoensis*, *Prunus persica*, *P. mume*) and the presence of adult beetles *in situ*. The exact distribution range as of 2020 turned out to be Akiruno, Fussa, and Hachiōji Cities, with the range in the last city restricted to the northernmost part, and the center of the whole distribution range in this district was thought to be in Ninomiya, Akiruno, from which the most outstanding expansion took place towards southwest.

Key-word: red-necked longhorn beetle, *Aromia bungii*, distribution range, Tama District, Tokyo Prefecture, 2020

I はじめに

クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* は中国大陸原産のカミキリ亜科 Cerambycinae, アオカミキリ族 Callichromatini, ジャコウカミキリ属 *Aromia* に属するカミキリムシで、サクラ類、スモモ、ウメ、モモ、アンズをはじめとするバラ科の旧 *Prunus* 属 (スモモ属) を加害し、若齢幼虫は形成層・内樹皮を、老齢幼虫は木部辺材を穿孔食害し、形成層穿孔食害により宿主樹を枯死させる重要害虫であり、日本では2018年1月に特定外来生物指定を受けるに至っている(1)。原産地の中国ではこれ以外の広葉樹への加害も知られているが、日本では加害樹は旧 *Prunus* 属に限られる(1)。生活環は1～3年1化性で、産卵数が非常に多く、雌雄成虫が芳香を発し、これとは別に雄が集合・性フェロモンを持つなどの生態特性が知られる(1)。

本種は幼虫穿孔に際し、フラス(虫糞および一部口器からこぼれた食べカス)を排糞孔から定期的に排出する。これは本種特有であるひき肉状またはミンチ状の塊となって排糞孔の真下に落下し、しばらくの間散らばらずに堆積することから、本種による被害木の視認に際して非常に重要な指標となっている(1)。

本種は日本国内では、2011～2013年に埼玉県・愛知県等で成虫が発見され、その後①群馬県南東部・栃木県南部・埼玉県北東部・茨城県南西部、②埼玉県南東部、③東京都西部、④愛知県西部・三重県北部、⑤大阪府南東部・奈良県西部・和歌山県北部、⑥徳島県北東部の6地域に定着と宿主樹の被害が見られるに至っている(1, 6)。

東京都西部においては、2015年以降にあきる野市・福生市で初めて被害が確認され(3, 7)、近年では東京都羽村市・昭島市・八王子市でも本種によるサクラ類の被害

情報が報じられ(6)、本種の東京都多摩地域における拡散が危惧される。しかし地域全体での分布域の調査はこれまでなされていない。

そこで今回、分布の中心と考えられるあきる野市二宮を中心として、その四方への本種の拡散の状況を調査した。

II 方法

1. 調査地 2020年7月2日, 13日, 16日, 8月16日, 31日, 9月10日, 11日に東京都のあきる野市東部, 青梅市東南端部, 羽村市西部, 福生市西部, 昭島市西部, 日野市多摩川河川敷, 立川市多摩川河川敷, 八王子市最北東部を自転車で周回した。この地域は基本的に農地・住宅地であり, 本種宿主樹(多くがソメイヨシノ)を含め樹木は八王子市高月町・加住町の森林を除き総じて点在して密生せず, 観察は容易であった。

2. 調査項目 調査地において, ソメイヨシノを主としたサクラ類およびウメ, モモの樹幹上で本種幼虫のフラス排出をもって被害樹と認定し, 発生成虫(図-1)の視認と捕獲も行った。幼虫フラス(図-2)を確認した際それを逐次サンプルとして採取した上で, まずひき肉状の形態で本種のフラスと判断し, 他種穿孔虫(コスカシバ *Synanthedon hector*, ゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca*)のフラスとの区別が難しい場合は文献(7, 5)を参考に, デジタルカメラ Olympus TG-5 の顕微鏡モード(最大倍率 44.4 倍)を用いて木屑の形状(非繊維状)や色(薄い黄色~暗褐色)により確実にそれといえるもののみを本種のフラスとした。

III 結果と考察

2020年の調査の結果本種クビアカツヤカミキリの生息が確認された地域, および確認されなかった地域を図-3に示した。ここで, 被害と生息が確認された宿主樹が含まれる町名は, 以下のとおりである。

あきる野市: 下代継・油平・牛沼・雨間・秋留4丁目・野辺・平沢・小川・小川東2丁目・小川東1丁目・二宮東1丁目・草花・二宮

八王子市: 高月町

福生市: 福生, 北田園2丁目, 北田園1丁目・南田園3丁目・南田園2丁目・南田園1丁目, 熊川

この地域は全体として樹木が密生する林は少なく, 本種が疎林環境に適応している可能性(1)と呼応していた。八王子市高月町と加住町1丁目の森林内では詳しい調査はできなかったが, 道路沿いの目視では本種の発生は認められなかった。本種が日本において市街地から森

林内に侵入し, 被害が森林域に拡がるのが危惧されたが, これまでの所そのような現象は知られていない(1)。今後本種のそういった環境選好性を正確に調査検討することが望まれる。

本地域におけるクビアカツヤカミキリの発生の中心は過去の経緯(4, 2)からあきる野市二宮近辺と考えられた。この周辺では公園や学校敷地などのソメイヨシノの枯死が目立ち, 侵入後の時間経過が長いことを示唆していた。この地点の周辺への侵入後, 本種は特に南西方向を中心に分布拡散したと考えられる。

発生の文献記録(1, 6)のある昭島市, 羽村市での発生は今回確認されず, 被害木の除去による駆除が行われたものと推察された。なお, 羽村市の羽中4丁目と昭島市拝島町5丁目の多摩川河川敷のソメイヨシノにはゴマダラカミキリとおぼしきものの発生が認められた。また青梅市河辺町1丁目の多摩川河川敷のソメイヨシノの枯死部にはウスバカミキリ *Megopis sinica* とおぼしきものの発生が認められた。

今回明らかになった本種発生域に鑑みると, 米軍横田基地(瑞穂町・福生市・武蔵村山市・立川市)での発生が危惧されるが, ここでの調査は当面できず, 侵入している場合ここから東方向の基地外へ分布域が伸びて東京都多摩地域全域に拡散することが危惧される。また, 本種が現分布域から北西方向に拡散すると, ウメを生産する青梅市に到達して, 更なる産業被害が出ることも危惧される。

引用文献

- (1) 岩田隆太郎(2018) クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* の現状: その分類・分布・生理・生態・根絶法. 森林防疫 67(6): 189-216
- (2) 加賀谷悦子(2018) サクラ・ウメ・モモ等バラ科樹木を加害するクビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* の侵入とその防除法. 樹木医学研究 22(1): 68-72
- (3) 桐山 哲・岩田隆太郎・加賀谷悦子(2015) 群馬県館林市・東京都福生市で発生が確認されたサクラ・ウメを加害する外来種クビアカツヤカミキリ. 植物防疫 69(12): 口絵, 807-809
- (4) 小林 明(2018) クビアカツヤカミキリおよびキクイムシ類によるサクラ類の被害実態. 樹木医学研究 22(1): 31-35
- (5) 大阪府立環境農林水産総合研究所(2019) クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書(改訂版): (行政担当者・施設管理者の皆様へ). 大阪府立環境農林水産総合研究所, [羽曳野]. 17pp.

- (6) 田村繁明・加賀谷悦子(2020) 日本におけるクビア
カツヤカミキリの分布拡大の経過. 森林科学 (89):21-25
(7) 安岡拓郎(2017) クビアカツヤカミキリ *Aromia*

bungii (Faldermann) 幼虫に対する薬剤の防除効果. 植物防
疫所調査研究報告 (53): 51-62



図-1. ソメイヨシノ樹幹上のクビアカツヤカミキリ成虫(東京都福生市北田園2丁目, 2020年7月2日)



図-2. ソメイヨシノ樹幹より排出されたクビアカツヤカミキリ幼虫フラス(東京都福生市福生, 2020年8月16日)



図-3. 東京都多摩地区のクビアカツヤカミキリ分布状況(2020年7～9月の調査). あきる野市, 福生市, 八王子市における生息を確認, 被害確認区域とその外側の無被害確認区域を示す. ●はサクラ類の被害樹, ◆はモモ・ウメの被害樹を示す